

ニガウリ(レイシ)



育苗

床土(培土) → ●畑の大将<青> 3%ほどを培土に混和しておくか、鉢上げ後の培土なら1ポット当たり20g程を置き肥すると、徒長せず充実した苗に。

散水時に散布 → ●根っ酵素500倍液 →根を強く動かし、生長を促進、シオレ防止。
●花咲くCa液500 →茎葉を厚く充実させ、健全な体質を作る。
※灌水は控えめに
※本葉2枚で若苗を定植
※播種後3日間隔、始めの1週間は1000倍、以後は500倍で交互に葉上からタツブリ散布し、茎が太く、葉の厚い苗を作る。
※定植3日前には、苗の引締め・仕上げに、Ca液を散布・充実させる。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
本畑の地力作り	なるべく早い時期に投入し、なるべく深く耕耘しておく(定植までに20日以上の間隔をおく)	●ラクトバチルス600g →通気・保水・保肥性がよく、深層まで肥沃な土に。 ●堆厩肥1トン以上(なるべく多く) ※前作の茎葉もなるべくスキ込み。 ●硫安80kg(N:16kg前後) ※堆厩肥が少ない場合には 硫酸カリ20kg 追加。 ※このチッソは微生物により有機化・地力化して、ジワジワと効く 定植時は土壌EC:0.2以下と、無機チッソが抑えられている事。 ※もし土壌pHが極端に酸性(pH:5.5以下)なら、地力作りにも畑の大将<青> 60kg以上を投入し、かつ下記、整地時にも施す。 好適pHは常時6.0~6.5。pH:6.5以上にすると徒長・過繁茂になりやすい。pH:7.5は決して好適ではない。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に散布(全面散布、またはウネ上散布)	●畑の大将<青> 60kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将<赤>を施す。 ※カルシウム量はチッソ量以上に、多めの施用を推奨。 ●マンゾク粒状50kg →根張り・生長促進、ツル割れ・根コブ線虫予防。 ※もし特に心配な園で農薬の土壌消毒をした場合は、毒性が抜けた後に米ヌカ等に混ぜて、ラクトバチルスを捕う事。(同時施用可能)
植付け時	苗のドブ漬け・植付け直後の灌水	●根っ酵素500倍液 →活着・初期の根張り促進。(必須) ※ツル割れ・土壌障害の対策。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
定植後20日 (着果開始の前)	〈根と体質を作る〉 初期の灌水使用 または葉面散布	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素2ℓを灌水(倍率は300倍程度) ※定植から半月間のうちは、なるべく灌水回数を少なくして、自力で活着させる。日中、少々萎れるくらいはOK。 灌水する時は、酵素液を混ぜタツプリ深く手灌水し、太根を伸ばす。(ツル先までの長さより根のほうが長くのびている事) ※主枝5～10節で摘芯。その日に酵素液を灌水して、側枝の根を強める。 ●花咲くCa液500倍を葉面散布または2～4ℓ灌水 ※扇型に誘引した側枝が棚の半分程を覆う頃までに、カルシウムを与えて、孫ヅルの過繁茂を防ぎ、葉を厚くし、花と着果をよくする。 ※着果開始前に、カルシウムを灌水または葉面散布して、花を強くする。
着果開始後、 収穫中	半月周期で、 灌水および葉面散布	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素2ℓを灌水 →根の強化、草勢の強化、実の伸び。 ●花咲くCa液2ℓを灌水 →引締め、生殖生長、うどんこ予防。 ※多量・多回数の灌水が必要だが、ナマ水でなく、どちらかを混ぜて灌水。 ※両液を交互に(7日ごと)葉面散布。葉を厚く、花を強く、実成りを維持する。
追肥	収穫ピーク時に遅れずに 第1回。以後、1月ごと ※なるべく株元から遠くまで、 全面・均一に散布	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安20～30kg ●畑の大将〈青〉20～40kg →常に同時施用して栄養バランスを維持。 ※栽培中に土壌が酸性(高EC)になった時は、カルシウムで回復する。 ※カルシウム不足や疲労時・高温時には、果実の成熟(過熟)が速く、濃緑色の果実が収穫後、果皮にツヤが出て内部(種皮)が赤変し、果皮の先端部から黄変する「過熟果」が多くなる。この徴候が現われたら、ただちに畑の大将〈青〉散布・根っ酵素液の灌水を行う事。